

鳩山町「生涯活躍のまち」構想推進による

住宅団地アクティブ化事業

—No.50 鳩山町—

【事業の目的】

鳩山町「生涯活躍のまち」構想とは、健康な状態を長く保ち、いつまでも元気で安心して暮らせるまちとすることを目的としています。また、住宅団地アクティブ化とは、高齢化が著しいニュータウン地区における活動拠点の整備や事業展開などを目的としています。

【事業の内容】

生涯活躍のまち構想及び基本計画を策定し、それに基づく様々な事業を展開するものです。具体的には、鳩山町コミュニティ・マルシェの整備や地域包括ケアシステムの構築や運用などです。その一つとして、平成26年に閉店となった日用品販売店舗の跡地を鳩山町が買い取り、移住や福祉、地域住民の交流の拠点として、鳩山町コミュニティ・マルシェとして整備するものです。

【事業年度】

平成28年度～平成32年度（計画期間5か年）

【予算額(千円)】

16,330千円（平成29年度）

【財源】

地方創生推進交付金（国）、一般財源（町）

【事業実施に至った背景・経緯】

鳩山町は県内一の高齢化率であり、特に開発から40年以上が経過したニュータウン地区は、平成28年末時点で高齢化率が約48%と非常に高い状況です。また、子供世代の流出などによる空き家の増加、極度な少子化による人口

減少、空き店舗増加によるにぎわいの喪失など、これらに歯止めをかける施策が必要となっています。

一方で、鳩山町は健康寿命が男女とも 1 位となっており、健康づくりや介護予防に積極的に取り組んだことが成果として表れています。このことを生かして、誰もが生涯にわたって活躍し、安心して暮らせるまちづくりを目指して取り組むこととしました。

【事業のPRポイント】

- 生涯活躍のまち構想の推進や地域包括ケアシステムの構築によって、健康寿命の延伸が期待できます。
- 鳩山町コミュニティ・マルシェは、「ふくしプラザ」「まちおこしカフェ」「移住推進センター」「シェア・オフィス」の 4 つの施設で構成され、地域住民による活動の中心拠点となることが期待されます。
- 地域包括ケアシステムが構築された住宅団地は少なく、県内において先進的な事例と言えます。

【事業実績・成果・今後の展開】

＜平成 28 年度＞

鳩山町生涯活躍のまち構想及び基本計画を策定しました。

福祉健康・多世代交流複合施設内に介護老人福祉施設が平成 29 年 2 月 1 日にオープンしました。

＜今後の展開＞

鳩山町コミュニティ・マルシェ、地域包括ケアセンターが平成 29 年 7 月 1 日にオープンします。その他の事業として、空き家への移住促進や学生向けシェアハウスを展開していきます。

【参考資料】

鳩山町コミュニティ・マルシェ イメージ

〔 連絡先 〕

政策財政課 政策推進担当 049(296)1212(直通)

鳩山町コミュニティ・マルシェ イメージ



鳩山町コミュニティ・マルシェ イメージ(レイアウト)

